

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0171600273		
法人名	株式会社ティーシーエイ		
事業所名	グループホーム巴 ユニット1		
所在地	松山郡厚沢部町字滝野518-1		
自己評価作成日	令和4年6月10日	評価結果市町村受理日	令和4年8月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171600273-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和4年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さん一人一人の意向に沿うように寄り添い、巴の名のように職員みんなが同じ考えで同じ方向に歩んでいます。
 巴ではすべての職員が理念に基づき、ご利用者の立場になって考え、カンファレンスで意見、気づきを積極的に出し合い、ケアプランに反映させ、整合性ある支援を真心込めて行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、道南にある松山郡厚沢部町の東方向にある滝野地区に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。介護保険法が施行された2000年に24時間365日の訪問介護を提供する目的で創業し、2004年3月に当事業所を開設した。開設当初は1ユニットだったが、その後増床し2ユニットとなった。ホームの裏は、田園風景に囲まれており、自然豊かな環境である。法人は、大阪本社の人材派遣事業のグループ会社で、介護事業は当事業所と厚沢部町新町にある1ユニットのグループホームとデイサービスのみである。認知症高齢者の介護事業所は、町内唯一の為、認知症の研修会や講演会の講師要請や実習生の受け入れなど町保健福祉課や地域包括支援センター、社会福祉協議会なども連携しており、認知症高齢者介護の町の拠点となっている。家庭的な雰囲気のあるホームで、これからも認知症高齢者介護の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・常に見える所に理念を提示し全職員で共有できています。理念に基づき「その人らしい暮らし」ができるよう取り組んでいます。	事業所の理念は、「住み慣れた地域でその人らしい普通の生活を支えます」として、事業所内に掲示し、職員間で共有し、利用者や家族にも周知して実践につなげている。	事業所の理念は、事業所内に掲示して、職員間で共有しているが、会議等で理念について振り返るなどの定期的な確認を行い、実践につなげることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣の農家さんより定期的に米を購入させて頂いています。 ・町内の理髪店の方に散髪をお願いしています。 ・広報誌を地域のお宅に回覧しバを理解して頂くよう努力しています。	町内会に加入し、広報誌を地域の方へ回覧して紹介している。また、厚沢部中学校生や看護学生の実習生やボランティアなどを受け入れており、地域に於いての認知症の理解につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症実践者研修、初任者研修の実習生の受け入れ等人材育成に貢献しています。 ・地域のボランティアを請けいれ認知症の理解につなげています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・コロナ禍の為、開催できない時期もありましたがグループホーム内での取り組みや事故事例などの報告や相談、地域とのつながりがもてる意見交流を行えています。	運営推進会議は、5月から再開したが、コロナウイルス感染症対策の為、1年半位休会していた。開催時は、地域包括支援センター担当者や社会福祉協議会担当者、町内会役員や家族が参加して意見交換し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催して、運営状況の報告をすることが義務付けの為、今後に於いては、休会ではなく参加可能なメンバーのみによる書面会議として開催運営して報告することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・役場福祉課の方々には相談できる環境が築かれており利用者様の情報提供や意見交換する機会が保たれています。	認知症介護の事業所として、町唯一の為、認知症の研修会や講演会の講師として依頼されるなど町福祉課との連携は日頃から行っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止について管理者及び職員は正しく理解して玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。 ・利用者の安全を考えて夜間はセンサーマットを利用して転倒防止に努めています。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備して、内部研修を定期的に年2回行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	義務付け事項として、事業所内に身体拘束廃止委員会等を設置して、3ヶ月に1回定期的に事例の検討会を行い、学びながら身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組むことに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉使いや対応等に職員間で注意しあうように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者及び職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について、講習会等に参加し学んでいます。現在、必要な方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約する際は利用者や家族に十分説明して不安や疑問点を尋ね理解と納得を図っています。 ・特に退去や急変時等の重要事項の内容に変更があれば十分に説明し同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱の設置や家族の面会時、外泊時には意見、要望を聞かせていただき、それらを運営に反映させて頂いています。	ホーム便りは年4回写真付きで発行して、家族へ運営状況の報告をしている。意見箱は玄関に設置しており、意見を聞く機会としているが、家族からの意見や要望は、コロナ禍の為、殆ど来訪時に玄関で聞き取っており、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の提案や気づいたことはすぐに報告し合い定期ミーティングにおいて全職員で話し合ったり、連絡ノートを設け活用しています。	職員の定期ミーティングは月1回全体で行っており、個人面談は4月に年1回定期的に実施しており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・現在は人手不足や両親の介護等で勤務体制に無理が生じておりますが、職員一人ひとりの意見を尊重し職場環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しています。法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています。しかしながら昨今、コロナ禍で研修等中止が相次いでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・厚沢部町地域ケア会議、ケアマネ連絡会、厚沢部町地域包括支援センター運営推進会議、グループホーム協議会等情報の提供や意見交換、研修の機会が確保されています。最近ではコロナ禍で中止や延期が相次いでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に必ず見学に来ていただき、不安に思うこと、困っていることを伺います。その時の気持ちに寄り添って安心できるように関係を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時には本人を含め家族から要望を聞き取りしています。 ・家族への電話や来訪時には日常生活の様子等伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居時には本人とその家族の希望を踏まえながら施設での対応を説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活している中で掃除等のお手伝いをして頂いています。 ・本人の力を最大限活かす支援を行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族への電話、来訪時に、協力のお願いや困りごとの相談をしています。 ・連絡を密にして情報を共有しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ドライブに出掛けたり、地域の話し等しています。 ・家族以外の友人、知人が自由に面会されている環境であったが昨今のコロナ禍で制限を余儀なくされています。	利用者は殆ど地元出身の為、利用者同士が顔見知りだったり、友人や知人の来訪が多かったが、現在は、コロナウイルス感染症対策の為、制限をしている。馴染みの理美容院等は訪問で依頼して関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ゲームをしたり、職員が中に入り一緒にお話しています。 ・利用者同士、良好な関係を築けるように職員は常に気配りしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設に移ることで契約が終了となる場合も本人やご家族の意向を聞き入れ、施設探しや移動に伴う必要書類などの相談を受けフォローしています。 ・退去後もご家族には運営推進委員会に参加して頂いた事もあり連絡を取り合っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・カンファレンスで利用者の立場に立って考えることを基本に意見を出し合い利用者のペースで生活が出来るよう、ご家族も含めたニーズに添った柔軟な対応が出来るよう努めています。	意思表示が可能な利用者が7割程度となっており、カンファレンスで、理念にある通り、利用者の思いや意向の把握に努めるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前にご本人、ご家族との面談や情報提供により生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・巴での生活も時間の経過と共に変化してくる為、ご本人、ご家族の希望も含めたケアプランを作成し支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月、職員が集まりカンファレンスを行っています。 ・定期的に開催している運営推進委員会では家族や関係者と問題点やケアのあり方を話し合い、意見やアイデアを反映して介護計画を作成しています。	カンファレンスは、計画作成担当者が司会進行して、職員全員参加でモニタリングして、家族からの意見や要望も含めて検討し、計画作成担当者が意見やアイデアを集約して、現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のケース記録を記入して職員間で情報共有しています。 ・職員間で話し合い随時、柔軟に介護の見直しを行い、会議で決定づけ介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々々のニーズや問題に対応して柔軟な支援、サービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域のボランティアが来訪されお話しされることがあります。 ・各保険者、消防署、警察署、地域の方々、ボランティア等のあたたかい協力の基、支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時には主治医意見書を提出して頂き確認を行なっています。 ・松山管内の病院も協力医療機関として定期受診、急変時や巴での生活継続が困難になった場合の支援、協力を頂いています。	協力医療機関に定期的に受診同行して支援している。主治医とは連携しており、急変時なども含め、協力医療機関は24時間対応の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・当グループホームでは看護師が現在不在な為、バイタルサインに異常があればすぐに受診しています。又、医師の指示に従った支援を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院した際は病院からの連絡先となり、安心して治療できる環境に勤めています。 ・入退院時には病院の連携室と連絡を取り合い、退院後の支援の内容を助言して頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、当グループホームで対応出来ることと出来ないことの説明をご本人、ご家族に説明しています。又、入院先の医師や関係者にも理解して頂き対応しています。	重度化や終末期については、入居契約時に説明しており、看取りは対応していない。重度化した場合は、主治医と連携して、他の施設や病院などへの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・訓練は行われていないが職員間で常に話し合い、確認しあっています。 ・応急手当や初期対応は行うも看護師不在の為、不安に思うところはあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に火災避難訓練を行なっています。 ・消防署の指導の下、消火訓練、避難訓練、消防署への連絡など、職員全員が対応出来るように努めています。	火災の避難訓練は、年2回消防署の指導の下、備蓄や備品を整備して、家族や地域の方の協力で定期的に行って、災害対策を行っている。	避難訓練は、地域の協力で、定期的に行っているが、自然災害対策のBCPと感染症対策のBCPの作成をして、それに基づき訓練を行い修正し、完成版を作ることを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉使い、対応には気をつけています。 ・症状や性格は三者三様であり、穏やかにその人らしく過ごして頂く為に「ありのまま」を受容した言葉掛けや対応に努めています。	人格の尊重やプライバシーについては、接遇の内部研修を定期的に行っており、人格とプライバシーを尊重した声掛けや言葉使いを指導して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人に尋ね、決定できるようにしています。 ・何かあった時はすぐに声を掛けてもらい普段の会話の中でも意見、意向を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・利用者一人ひとりの認知度、介護度に合わせた支援をしています。 ・利用者それぞれの嗜好を考慮して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・職員は季節に合った服、上下の組み合わせなどのアドバイスを行っています。 ・本人の希望に添った服装が出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来る方には食器拭きを手伝って頂いています。	食事は職員が担当しており、献立や食材調達、調理を行っている。食材は町内の商店から仕入れている。利用者は食器拭きなど手伝っている。行事食は皆で考えており、夏祭りでバーベキューや隣のそば屋で天ざるの食事会など楽しみな支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者に合わせ主食をお粥にしたり、副食を一口サイズ、刻み、又はミキサー食にする。咽の多い人にはトロミ剤を使用しています。一日の摂取状況を個別に記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後歯磨きを行っています。個々に合った歯ブラシ、歯磨き粉を準備しています。 ・義歯を使用している方には夕食後、義歯洗浄剤を使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・時間をみてトイレの促しを行っています。 ・歩行や立位に不安がある方には見守りや介助しています。	利用者個々の排泄記録簿を確認し、職員間で共有し、時間や様子を見ながら声掛け誘導して、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事には食物繊維を多く含む食材を使用しています。 ・歩行運動を促したり、下剤を服用していただく事もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	・入浴日はあらかじめ設定しています。 ・その日の体調に合わせてご本人の希望を取り入れています。	入浴は週2回で、午後からの予定で、入浴剤などを使用し、本人の体調に合わせて、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は自ら居室に戻り休まれたり、促して休まれたりしています。 ・夜間は個々の状態に合わせて居室の戸を少し開けて転倒防止を図っています。 ・夜間、小玉電球は希望に添った対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確認しています。職員が口内に入れ飲み込むまで見守りを行っています。 ・服薬後の症状の変化に注意して受診の際は医師に状態を説明しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・お手伝いをお願いしています。なるべく多くの利用者が参加できるゲームを行っています。 ・カラオケやカードゲーム、パズル等気分転換になる遊びを取り入れています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日はドライブに出掛けたり、外気浴に出ています。 ・花見の時期には車椅子を使用される人も歩行可能な方も一緒に出掛ける支援をしています。	天気の良い日は散歩や外気浴などを支援している。お花見の時期には、車椅子利用の方も一緒にお花見ドライブなど季節を感じる外出支援をしている。また、敷地内での菜園の草取りや畑作業なども行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理できる人には支援しています。 ・要望があれば職員と一緒に買物に出掛ける時もあります。 ・職員が買物を頼まれる時があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話したいという時は職員がダイヤルを押したり手紙の住所を代筆して近くのポストに代理で出す時があります。 ・携帯電話を持っている利用者は自ら自由に電話しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールの壁には季節にあった飾り付けをしています。 ・利用者の中にはトイレの鏡に反応して排泄に集中できない事があるのでレースのカーテンを掛ける等、工夫しています。	共用空間は、どちらのユニットも中央にリビングと食堂があり、居室は周りに配置している。採光や風通しもよく、整理整頓されており、壁には、行事の写真や季節の飾り物が掲示されている。窓からは、田園風景が見られ、季節を感じる。ユニットは双方の台所で繋がっており、職員や利用者も往来できる。利用者はリビングで寛いで過ごしている。	共用空間は、採光や風通しもよく、温度や湿度も管理して整理整頓されているが、温暖化の為、真夏日が増加しており、利用者の熱中症対策として、冷房等の設備の導入を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・新聞や雑誌を見る方には食卓で読みやすいよう配慮しています。 ・友人関係にある利用者には一緒にソファに座り、お話されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内の動線を安全に過ごしていただくように工夫しています。 ・ご本人が在宅時から使用している物を持参して頂き居心地よく過ごされるよう工夫しています。	居室には、収納とベッドが設置している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・朝の掃除や日中の手伝いは安全に出来る人が行っています。 ・手伝いの意欲はあっても転倒の危険がある方には新聞を促すなど工夫しています。		